

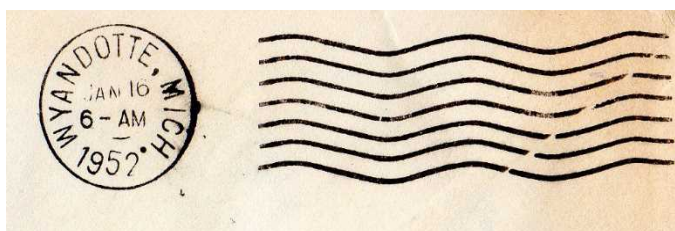
日本貿易博覧会記念切手の使用例

なぜ、日付の違う消印が二つ？

近江支部 酒田 義博



米宛船便印刷物 50gまで10円 (1951. 12. 1~1961. 9. 30)
NIHONBASHI/3. 12. 51 /4. 12. 51



「日本貿易博覧会」記念切手の切り抜き使用例を紹介します。写真のエンタニアは、第一製菓（現在の第一三共）から米国ミシガン州 WYANDOTTE（ワイアンドット）に宛てたものですが、何故か日本橋局の日付の違う（3. 12. 51 と 4. 12. 51）欧文日付印がそれぞれ押されています。外信印刷物料金は2日前の、1951年12月1日に5円から10円に値上げされていますが、それを知らずに12月3日に局に持ち込み、料金改正を指摘され、（5円切手を購入すればよいのに）会社に持ち帰り（会社にこの切手の在庫が沢山あったのでしょうか）、12月4日に5円分加貼のうえ、再差出されたのでしょうか。また、4日の日付の切手は私製目打が施されている無目打切手である等、いろいろなことを想像させてくれるエンタニアです。